

## 【活動事例発表】

### 〈助言者講評〉

2校によるととても素晴らしい発表に感謝する。また、両校ともにPTA活動について、生徒に対する支援や応援として自らの立ち位置を明確にして進められているところは、活動にあたり分かりやすく、活動しやすさに繋がっていると感じた。

はじめに、神奈川総合産業高等学校による「個性あざやかに楽しく成長する喜びを」をテーマとした発表について、発表していただいたPTA役員の皆さんが統一したTシャツであるが、色はそれぞれであったことに驚きと疑問を感じた。しかし、それはそれぞれの個性として捉えて統一した色にしなかったことを発表され、学校の特色や学校教育目標を理解した上で、PTA活動をされていることにさらに驚くとともに、とても感心させられた。生徒や教職員だけではなく、PTAの方々が特色や学校教育目標を理解して活動している。こうした取り組みや考え方は、学校として「チーム」で取り組む上でも、とても大切なことである。各委員会においては、テーマを掲げて活動を行っていることの発表があった。同校のLiSA サポートーズ（同校PTAの名称）が楽しく、和気あいあいと活動されているのは、しっかりとテーマをもって活動していることによるものと感じた。同サポートーズでは、「できる人が。できる時に。できる事を。できるだけ。」をモットーに活動している。これは、それぞれの立場や考え方があり、そうした中で、テーマを設定することでまとまりを得ることがうかがえた。委員会活動の中では、「ふれあい委員会」の取組でサポートーズ交流会では、100名以上の保護者、生徒及び先生が集まり交流をしているとの報告があった。コミュニケーションは言葉だけでなく、表情や声のトーンなどが重要な要素となることを考えるとサポートーズ交流会で顔を合わせながらの交流はコミュニケーションが高まり、意義は大きいと感じた。

次に、「PTAもチームでチャレンジ」をテーマに発表をいただいた上溝南高等学校PTAの取組について、はじめに発表いただいた「チャレンジ」という言葉であるが、生徒の「チームでチャレン

ジ」という合言葉と同様に、PTAでも「チャレンジ」を合言葉にされていることに対し、取り組みの内容は、多少違いはあるが、神奈川総合産業高等学校と同様に、学校の特色、目標や取り組みを理解しながら活動を進められていることに感心した。昨今、生徒は、「できない」や「無理」などというネガティブな言葉から始まることが多いと感じている。しかし、これまでよりも一つ上を考え、できないと思っていることにも進んでいく積極的な気持ちが伝わる「チャレンジ」という言葉はとても印象的であり、携わる人たちの気持ちが前に向くような、意欲を高める言葉となっていると感じた。上溝南高等学校PTAの方々の取組においては、「バンダパングまつり」において、ヒヤリハットマップの作成や、同まつりを地域の方の声を聴く機会と位置付けるとともに、地域の小・中学校のPTAとの連携を深めるなど、PTAとして地域に入り込む積極性がうかがえた。学校として地域の小・中学校と連携を進めているが、PTAが地域との連携に取り組んでいることは、私自身がはじめて聞くところであり、大変素晴らしい考え方だと感じた。高等学校もコミュニティ・スクールとして、地域連携を進める必要性が求められる中で、高等学校のPTAが地域連携を進めることはとても素晴らしいことである。

PTA活動については、なかなか成り立たないという話も聞いている中で、両校の取組はとても素晴らしい。これから先、学校としてもコミュニティ・スクールの活性化や教員の働き方の変化が求められる中で、PTAの活動はとても重要な役割を担うと考える。それぞれの活動の先には生徒の育成があることを忘れずに、各学校においてもPTA活動を楽しみながらご尽力いただき、活動を活性化させていただきたい。



